


大切なのは自分で感じ、学ぶこと



その昔、一面の雑木林だった土地に建つ保育園。園庭に今もしっかりと根を張るクヌギやカシなどの大木はその名残です。木々の太い枝に巻かれたタイヤロープに乗ったり、どんぐりや落ち葉を集めたり、木登りや泥んこあそびなどを通して子どもたちはのびのび生活しています。園庭の菜園ではトマトやさつま芋などポピュラーな野菜から、ごまや綿といったものまで、年間約三〇種類ほどを栽培。苗を植え、育て収穫し、調理して食べる……。園内で自然のサイクルを経験できるのも自慢です。「教えるのではなく自分で感じ、学ぶことが大事です」と、福島憲基園長はいます。



泥んこって気持ちいい！ 自然のなかであそぼう

◀各クラス、年に1度、野菜や草花を使った染めものを行います。この日挑戦したのは4歳児クラスの子どもたち。クラスカラーである緑色にTシャツを染めるのだといいます。染液の材料はヨモギ。子どもたちが春に土手で集めたものだそうです。「だって春のヨモギのほうがキレイな色に染まるんだよ!」と、子どもたち。煮染めたTシャツを保育士が鍋から取り出すと、子どもたちが水洗いをします。時間はかかりますが、できることは挑戦させる。保育に大切なのはそういった見守りだといいます

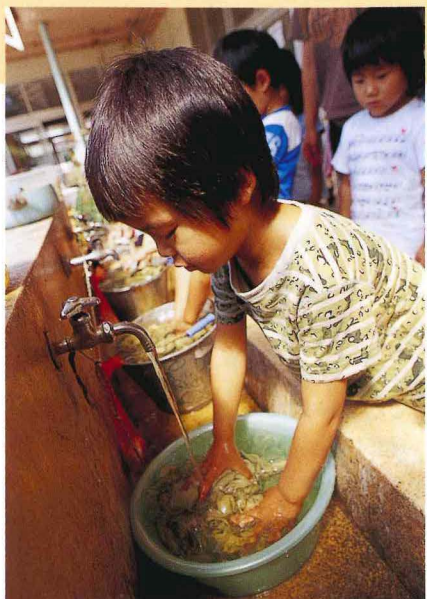
なかで自然に経験することがむずかしい現代、保育園で営まれる集団の生活はとも大切です」と、中島主任。だからこそ、一人ひとりをていねいに見守りつつ、集団を大切にしたい保育を実践しているのです。

黒光りした板張りの床。使い込んである木製の机といす。園庭からそよぐ風と日だまり。見るものすべてやさしい雰囲気を持ち、どこかホッとできる空気が流れている「まごやま保育園」。家庭的な雰囲気大切にしたい、子どもたちを広いところでのびのびとあそばせたい……。そんな思いから、ゆったりとした環境のなかで、昔から六〇名定員という比較的小規模な保育を続けています。



保育士たちが常に意識しているのは、思いやりのある素直な心と我慢強さを育む保育。それは子ども同士のかかわりをはじめとしたさまざまな経験のなかで育まれるといいます。「人は人とのつながりのなかで生きています。そうした人とのかわり合いが地域や家庭の

なかに経験することがむずかしい現代、保育園で営まれる集団の生活はとも大切です」と、中島主任。だからこそ、一人ひとりをていねいに見守りつつ、集団を大切にしたい保育を実践しているのです。また、開園当初から自然体験と食を意欲した保育を行っているのも特徴の一つ。まさに今でいうところの食育です。菜園でとれた野菜や果物を料理したり、ままことなどのあそびに利用したり。二歳ごろから包丁を使う経験を積んでいる子どもたちは、包丁の扱いもちゃんと心得ています。園庭には二種類の実のなる木もあり、大きな子どもたちはヒヨイヒヨいと木に登り、ちゃんと食べごろの果物をもいでくれます。自然は発達に応じた学びを授けてくれる。しっかりと地面に足をつけて、子どもたちは成長しています。



▶小さい子どもたちは11時頃から給食が始まります。ちょっと早めかな？聞いてみると、散歩やあそびが中断されてしまうので、午前のおやつはゼロ歳児クラスから行ってないといいます。その分、早めに給食をスタート。たっぷりあそんで、みんな食欲もりもりです。給食やおやつには菜園でとれた野菜なども頻繁に登場。今日のおみそ汁にはお散歩でとってきた三つ葉が入っていました。2歳以上の子どもたちは、調理室から給食を運ぶお手伝いもしています

▼大きなスベリ台や下が見えるはしごなど、木製のアスレチックは保育士たちのアイデアを取り入れて大工さんに作ってもらったオリジナル遊具です。「大きなスベリ台をすべるのは、かなり勇気がいるんです」と保育士。隣の小さなスベリ台が専門だった2歳児ですが、お兄さん、お姉さんに触発(?)されて最近挑戦するようになりました。ちょっと怖いけど挑戦してみたい！挑戦と自信が子どもを大きく成長させます



◀木にたとえると5歳児までは根っここの部分を育てているようなもの。だからこの時期にいろいろなものを吸収させてあげたい。その体験の一つが本や紙芝居の読み聞かせです。お昼寝の前はゼロ歳児から5歳児まで、それぞれクラスごとに読み聞かせを行っています。ホールの隣には図書室もあり、週に1度おうちへの貸し出しも行ってます

取材協力/まごやま保育園(私立)
〒365-0055
埼玉県鴻巣市栄町7-24
TEL:048-542-5002 定員60名
撮影/島田 聡 文/編集部

▶裸足になり、指と指でしっかり竹馬をはさんでイチニ、イチニ。保育士が添えている手をそっと離すと、ひとりで3歩も進むことができました。「やったー、すごいすごい！」自分のことのように喜ぶ保育士をみて、子どもは再チャレンジ。一緒に喜んでくれる存在がいるって、幸せです

